

東芝空調換気扇

取付説明書

形名
VFE-8JDT2,10JDT2,12JDT2タイプ



- この換気扇の注意事項をよく知っていただき、正しく取り付けていただくためにこの取付説明書をよくお読みください。
- 取付工事は、必ず専門の工事店にご依頼ください。
- 別冊の取扱説明書及びこの取付説明書は工事完了後、お客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく取り付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載しています。次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明

警告

“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（※ 1）を負うことが想定される内容”を示します。

注意

“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（※ 2）を負うことが想定されるか、または物的損害（※ 3）の発生が想定される内容”を示します。

※ 1: 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療入院・長期の通院を要するものをさします。

※ 2: 傷害とは、治療入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

※ 3: 物的損害とは、家屋・家財および家具・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

禁止（してはいけないこと）を示します。
具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

指示する行為の強制（必ずすること）を示します。
具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

●取付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この取付説明書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。

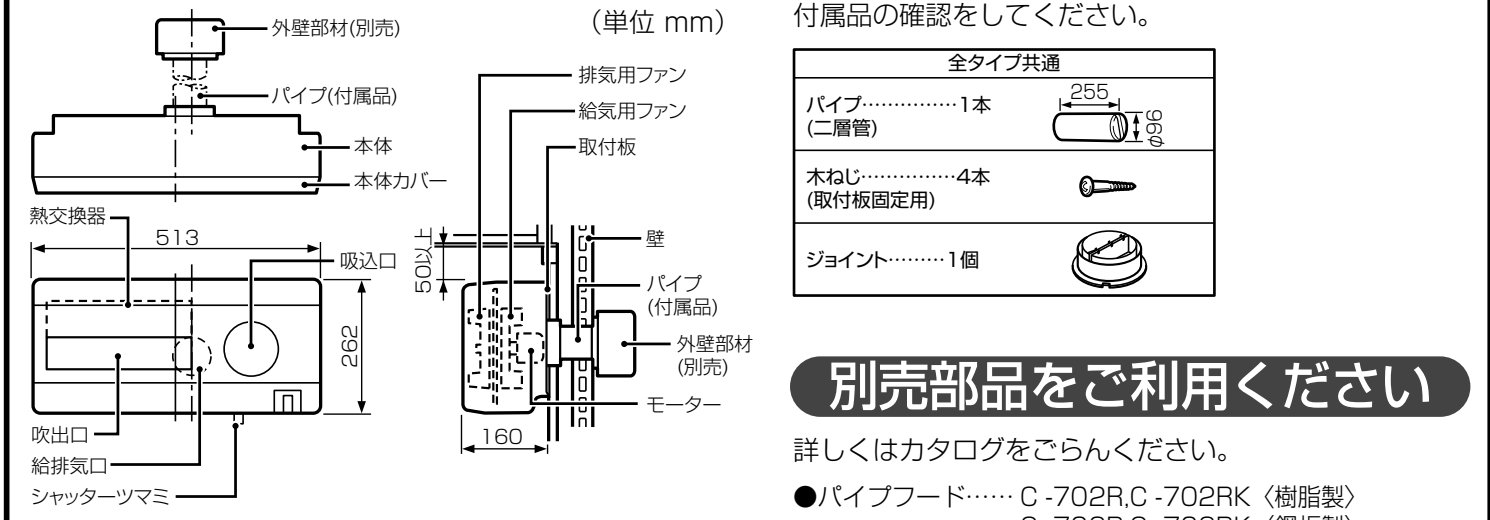
警告	注意
<div></div> <div>取付け・移設は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する</div> <div>取付けが不完全なときは、水漏れ・火災・感電・部品落下によるけがの原因になります。</div>	<div></div> <div>天井面に取り付けない</div> <div>落下し、けがをする原因になります。</div>
<div></div> <div>電気工事は電気工事士（※）が行う</div> <div>電気工事士以外の人が工事をすると、火災・感電・けがの原因になります。 ※電気工事士への依頼はお買上げの販売店または電気工事店にご相談ください。</div>	<div></div> <div>排水は確実に</div> <div>前後左右に傾けて取り付けない またパイプは確実に排水するよう取り付ける</div> <div>水漏れの原因になります。</div>
<div></div> <div>確実に取り付ける</div> <div>取付けは取付説明書に従って確実に行う</div> <div>取付けが不完全なときは、水漏れ・感電・火災・部品落下によるけがの原因になります。</div>	<div></div> <div>浴室など湿気の多い所には取り付けない</div> <div>漏電したとき、火災・感電の原因になります。</div>
<div></div> <div>改造はしない</div> <div>火災・感電・けがの原因になります。</div>	<div></div> <div>炎が接近したり、あたるおそれのある所には取り付けない</div> <div>火災の原因になります。</div>
<div></div> <div>分岐・修理禁止</div> <div>修理技術者以外の人では分解、修理（※）をしない</div> <div>火災・感電・けがの原因になります。 ※修理はお買上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにご連絡ください。</div>	<div></div> <div>メタルラス張りなどの金属造管材に接触しないように取り付ける</div> <div>漏電したとき、火災・感電の原因になります。</div>
<div></div> <div>給排水口は燃焼ガスや有毒ガスなどを吸い込まない所にする</div> <div>また積雪で給排水口をふさがない所にする</div> <div>新鮮な空気の換気ができます、ガス中毒や酸欠の原因になります。</div>	<div></div> <div>パイプは室外に向かって下りこ配に取り付ける</div> <div>雨水の侵入により、火災・感電・水漏れの原因になります。</div>
<div></div> <div>強度のある所に確実に取り付け</div> <div>落下により、けがをする原因になります。</div>	<div></div> <div>本体カバー・熱交換器などの部品は確実に取り付ける</div> <div>落下により、けがをする原因になります。</div>
<div></div> <div>電源は交流 100V を使う</div> <div>交流 100V 以外の電源を使うと、火災・感電の原因になります。</div>	

取付上のお願い

- 次のような場所には取り付けしないでください。
 - 高温（40℃以上）になる場所
 - ガスレンジの真上
 - ガス湯沸器の真上
 - 浴室など湿気の多い場所
 - 台所など油煙の多い場所
 - 腐食性ガスの発生する場所
 - 暖房器・加湿器の近くや真上

- 住宅用火災警報器より1.5m 以上離れた位置に設置してください。（総務省令第 138 号、第七条による）
- 製品は直接壁に取り付けますので、下記条件に合う場所を選んでください。
 - 風の吹出口、吸込口に障害物のないところ
 - 本体カバーがはずせて熱交換器を前に引き出せるところ
 - 製品の下側に障害物がなく、シャッターレバーが操作しやすいところ

各部のなまえと寸法



付属品

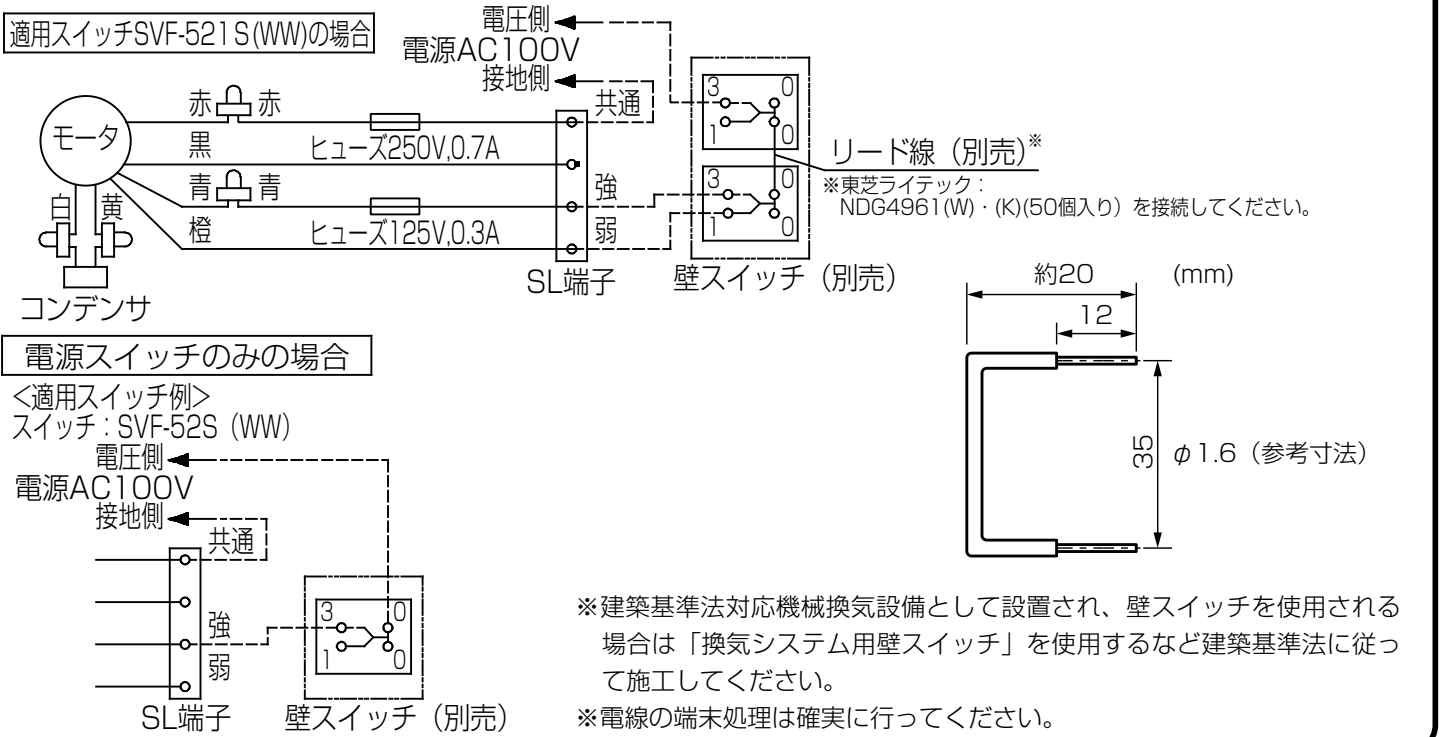
付属品の確認をしてください。

全タイプ共通	
パイプ（二層管）	1本
木ねじ（取付板固定用）	4本
ジョイント	1個

別売部品をご利用ください

- パイプフード
C-702RC・702RK（樹脂製）
C-703RC・703RK（銅板製）
C-704R_e（ステンレス製）
C-701LY・C-701LY(K)（アルミ製）
C-704LY・C-704LY(K)（ステンレス製）
- 防火ダンパー付パイプフード
…… C-704RD_e（ステンレス製）

配線図



取り付け前の準備

本体下部の本体固定ねじ 2 本をはずし、取付板を本体からはずす。

取付方法

- 本体を先に取り付ける場合
- 1-1 型紙を利用し取付位置を決め、パイプ用壁穴（φ110）をあける。
 - 取付板固定用穴が銅線にかかるようにしてください。
 - 取り付け場所が弱いと振動・騒音・落下の原因となりますのでご注意ください。
 - 壁穴の位置が、屋内配線、電話ケーブル、柱などの障害物にからないようにしてください。
 - パイプ用壁穴は必ず室外側に 3° の下り勾配となるように穴あけしてください。
- 1-2 型紙を利用し電源電線引き出し可能範囲のなかに穴（φ15 程度）をあけ、電源電線を屋内側に引き出す。
 - 電源電線は VVF φ1.6 または φ2.0 を使用してください。
- 1-3 付属のパイプを壁厚 + Amm の長さで切断する。
 - 外壁部材の種類により A 寸法が異なりますので、詳しくは外壁部材の取付説明書をごらんください。
 - バリがでた場合は、取り除いてください。

- 本体を先に取り付ける場合（つづき）
- 1-4 ジョイントにコーキング材を塗布し、パイプを溝の奥まで確実に挿入する。ジョイントとパイプを市販のアルミテープで固定する。
 - コーキング材はジョイント端部より高く塗布してください。
 - ジョイントの内側のコーキング材の表面を平らにしてください。
 - コーキングをしないと雨水が侵入します。
- 1-5 取付板を付属の木ねじ 4 本で固定する。
 - 取付板には取付用の穴がいくつもあいていますが、銅線に固定できる穴を使用してください。
 - 取付板と壁面に隙間ができないようにしてください。
 - 木ねじが 1 か所に集まらないように四すみに分散してください。
 - コンクリート壁の場合には、PY プラグなどを利用して木ねじで固定するかコンクリート釘で固定してください。
 - メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属張りなどの木造の建物に取り付けるときは取付板が金属部分と電氣的に接触しないように絶縁物をはさんでください。
- 1-6 パイプを取付板に取り付ける。
 - ジョイントの切欠きを取付板の凸部に合わせて取り付けてください。
 - ジョイントと取付板に隙間がないようにしてください。
 - 壁穴とパイプの隙間から雨や風などが入らないようコーキングしてください。
- 1-7 別売の外壁部材（パイプフード等）を壁面に取り付ける。
 - 外壁部材は必ず取り付けてください。雨水の侵入により、火災・感電・水漏れの原因になります。
 - 取付方法は外壁部材に付属の取付説明書を参照してください。
 - 外壁部材は必ず二層管用をご使用ください。有効換気量が確保できなくなります。
- 1-8 電源電線を本体内へ引き込む。
 - ①本体カバーをはずす。
 - ②ねじをはずし、電装カバーをはずす。
 - ③電源電線を電源電線引き込部より本体内へ引き込む。
- 1-9 本体を取付板に固定する。
 - 本体上部の穴を取付板の引掛け部に引掛け、本体固定用ねじを 2 か所締め付け、本体を固定してください。
 - ねじは本体をしっかり壁に押しつけて締め付けてください。
- 1-10 電源電線を接続する。
 - ① SL 端子に電源電線の芯線を確実に奥まで強く差し込んでください。（電線径は φ1.2mm をいってください）
 - ② SL 端子から電線が抜けにくいことを確認してください。
 - ③ 配線図にしたがってまちがえのないように結線してください。誤結線した場合、ヒューズが切れて運転できなくなります。
 - ④ 電装カバーを取り付け、ねじを締め付け固定し、本体カバーを取り付ける。

取付方法（つづき）

- 外壁部材を先に取り付ける場合
- 2-1 取付位置を決め、外壁面にパイプ用壁穴（φ110）をあける。
- 2-2 付属のパイプを内装仕上げ面からパイプ端部の寸法が 5 ～ 20mm 以内の範囲になるようにする。
 - パイプ用壁穴は必ず室外側に 3° の下り勾配となるように穴あけしてください。
 - 壁穴とパイプの隙間から雨や風などが入らないようにコーキングしてください。
 - パイプの仕切板が垂直になるようにしてください。
- 2-3 別売の外壁部材（パイプフード等）を壁面に取り付ける。
 - 外壁部材は必ず取り付けてください。雨水の侵入により、火災・感電・水漏れの原因になります。
 - 取付方法は外壁部材に付属の取付説明書を参照してください。
 - 外壁部材は必ず二層管用をご使用ください。有効換気量が確保できなくなります。
- 2-4 内装仕上げ後、型紙を利用し内装仕上げ面のパイプ位置に壁穴（φ110）と電源電線取出し口をあける。（1-1、1-2 参照）
- 2-5 取付板を付属の木ねじ 4 本で固定する。（1-5 参照）
 - 取付板には取付用の穴がいくつもあいていますが、銅線や補強材に固定できる穴を使用してください。
 - 取付板と壁面に隙間ができないようにしてください。
 - 木ねじが 1 か所に集まらないように四すみに分散してください。
 - コンクリート壁の場合には、PY プラグなどを利用して木ねじで固定するか、コンクリート釘で固定してください。
 - メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属張りなどの木造の建物に取り付けるときは、取付板が金属部分と電氣的に接触しないように絶縁物をはさんでください。
- 2-6 ジョイントにコーキング材を塗布し、パイプに挿入する。
 - コーキング材はジョイント端部より高く塗布してください。
 - ジョイントの切欠きを取付板の凸部に合わせて取り付けてください。
 - ジョイントと取付板に隙間がないようにしてください。
 - ジョイントの内側のコーキング材の表面を平らにしてください。
 - コーキングをしないと雨水が侵入します。

- 以下の工事は「本体を先に取り付ける場合」と同様に行ってください。（1-8 ～ 1-10 参照）
- 2-7 電源電線を本体内へ引き込む。
 - 2-8 本体を取付板に固定する。
 - 2-9 電源電線を接続する。

試運転

- 各部の取付強度は十分か。
- シャッターを開ける。
 - シャッターレバーを「開」の位置まで完全に開いてください。
- 電源を入れる。
 - ①分電盤のブレーカーを入れる。
 - ②壁スイッチの入・切スイッチを「入」にする。